



水道水の水質の安全確保とDXによる安定供給の取り組みについて

まず、水質の安全確保につきまして、本市では令和2年度から毎年、全国的に注目されている有機フッ素化合物のPFOS・PFOAに関する水質検査を実施しており、これまでの検査結果では、国が定める暫定目標値（50ng/L）を大幅に下回っているところですが、本年度の検査結果においても、PFOS・PFOAの検出値は全ての水源地で国の暫定目標値を大きく下回っており、本市の水道水の安全性が継続的に確保されていることを確認しました。

PFOS・PFOAにつきましては、水質基準に関する省令が一部改正され、来年4月から、検査回数は概ね3カ月に1回以上が基本となりましたことから、本市におきましても、国の基準に則り、定期的な水質検査を実施してまいります。

次に、漏水の早期発見と予防保全の強化のために導入しました人工衛星データとAI技術を活用した水道DXソリューション「宇宙水道局」による漏水リスク評価につきまして、速報値として、相対的に漏水確率が高い箇所（100m四方）が給水区域全体の約6%あるとの結果報告を受けました。来月以降、この診断結果に基づき音聴調査などの現地調査を実施し、効率的かつ集中的な漏水対策を行い、有収率※の向上に努めてまいります。

今後も、市民の皆さんに安全・安心でおいしい水道水を安定供給できるよう、持続可能で強靱な水道事業の実現に向けて取り組んでまいります。

※有収率…浄水場や配水池から供給された総水量のうち、実際に料金を徴収できた水量が占める割合のこと。

漏水リスク診断結果

リスク診断結果	漏水確率	推奨される行動	メッシュ数 (100m四方)	面積(K㎡)	割合(%)
E	相対的に漏水確率が非常に高い	漏水確率が非常に高く、音聴調査などの現地調査を強く推奨します	39	0.39	1.1
D	相対的に漏水確率が高い	漏水確率が高く、音聴調査などの現地調査を推奨します	155	1.55	4.5
C	相対的に漏水確率が中程度	漏水確率が中程度ですので、保全的な観点で定期的な追加調査を推奨します	323	3.23	9.5
B	相対的に漏水確率が低い	漏水確率は低く、軽微な点検などの経過観察を推奨します	773	7.73	22.7
A	相対的に漏水確率が極めて低い	漏水確率は極めて低く、より軽微な巡視などの経過観察を推奨します	2,121	21.21	62.2
合計			3,411	34.11	100